

選択する未来

2014年10月17日

専門委員 (株)エムスクエア・ラボ 加藤 百合子

□ 現場の理想と現実 地域のものづくり(農業・工業)の視点から

● ものづくり中小企業

【理想】 保有するノウハウ、取得した特許で儲けたい。【現実】資金がないところ、大手の甘い罠に引っ掛かり、盗まれて終了か上手く飼われて継続。国の事業等も同様に、大手が一次請けするもののマネージメントは下請けの中小企業へ。結果として中間管理職ような立ち位置で大変なだけ。

● 大学・企業内・独立 研究者

【理想】上記同様に取得した特許、保有する知識やノウハウで儲けたい。【現実】時間5000円という講義もあり、専門家として生活が成り立たない。

● 起業家/挑戦者

【理想】憧れられる存在でありたい。【現実】リスクな変人扱いで、失敗を望まれる存在。資金もなく、邪魔も多く、リスクが高過ぎるため選択すべき道ではない。

● 農業者

【理想】美味しくて安心してもらえる食材をリーズナブルに提供したい。【現実】物流コストが上がり、円安で燃料費や飼料も高騰しているので価格を下げようがない。泣く泣く、農家手取りを削ることになっている。

● 新規就農者

【理想】地域の助けを得ながら、一農家として、一生産法人として自立したい。【現実】いい農地が得られない(=建て替えが必要な工場のような土地をあてがわれる)ため、経営的に厳しくなり、諦める人が多い。また、いい農地であっても、希望するすべての人がすぐにできるものでもない。

● 若者

【理想】地元で安心して働きたい。【現実】仕事がない。カッコいいもの、文化的なものが少ないので楽しくない。

● 教育

【理想】第一に一人でも多くが自立し、納税できる人材を育てること、次に付加価値を産める人材を育成すること。【現実】自立できないニートが数百万人。子供扱いが長いために競争力をなくし、画一性を重んじるため、やる気を挫かれ、想像力、創造力を養うチャンスが与えられない。早い時期から落ちこぼれ、理系、文系等のレッテル張られてしまう。また、工業高校と農業高校の連携もできず、地域の有識者を授業に活用できていない。さらに言えば、給食がまずい。

□ 整理

現在、夢が持てず、イノベーションは極めて起こりにくい環境にある。

↓そうになっている要因は？

①分断されてきた業界、縦割り行政 ②画一性重視

↓分断、画一性重視の原因は？

既得権益層が権力と資金を持ち、

それを脅かす変人や若手のやる気に蓋をし、資金を市場に出さないことが要因。

↓どうする？

ひとつの業界・組織に依存しないつなぎ役が必要。

首長・議員の役目か？社会学者か？ヨソモノ？リーダー？

↓で？

どんな立場でもいい。独立系のお節介な「なこうど役」とその人・グループへの投資が必要。

そうすると・・・

あちらこちらで何かが起こる、起こす。

↓

仕事生まれる⇒人が集まる⇒意識が変わる。

↓

夢を持てる社会へ

□ 施策提案

① なこうど役

都会と地方、民間と行政、各省庁間、部署間など、人材交流を超え、相互課題解決のための留学を政策的に推奨する。イノベーション 人材は、難題を解かせるチャンスを与えることでのみ伸びる。特に地方創生には、各業界のエース、伸ばしたい人材を投入することが育成とジャンプスタート、一挙両得につながる。

② ベンチャー・中小零細の成長発展阻害要因＝既得権益層に邪魔させない。

1. エンジェルとベンチャー・中小零細のマッチング強化
2. なこうど役と地銀・信金エースとの協業

(そもそも国内にエンジェルはいるのか???)

③ インセンティブとペナルティ

先駆者奨励とさらなるインセンティブ、危機放置・資産未活用に対し気づいてもらうためのペナルティを課す。

(農地課税増は既に効果発揮。)

④ 教育の目的明確化

自立し、働く人を増やす。 1. 自立 2. 知恵 3. 多様性 を重んじる教育へ。

⑤ 多様性容認のための仕掛け

まずは、少なくとも女性が働きやすい環境づくり＝残業依存の働き方から脱却。その間に、義務教育から外国人や変人等多様性対応に慣らす。

【参考】 表沙汰にならないミクロな周辺事情

● プラス傾向

- 農水省・・・企業からの交流人材が積極的に省内外をつなぐ役を担っている。
- 静岡県庁・・・庁内ベンチャーを募集し、外部と連携することを条件に来年度いくつか立ちあがる予定。
- 慶応女子高校・・・多様性を受け入れることが文化として長らく根付いており、各方面で活躍する女性を排出している。
→分析する必要あり。
- 農家のおばちゃん・・・70歳超えのおばちゃん5、6人がパソコンを習い、直販に対応。1人で年間1000万上げるようになった人もいる。今から20年前ほど、県の事業でアメリカに行かせてもらったのがおばちゃんがリーダー。
- 東京大学・・・2年生がソーシャルアントレプレナーのゼミを自らリーダーとなり、実践を交えながら研究・習得している。
- お節介役・・・トーマツベンチャーサポート、KSP(川崎市)等活発にベンチャーサポートしている。ただ、忙しすぎてどう頼るべきかわからない。

● マイナス傾向

- 技術系ベンチャー・・・アメリカで合弁会社設立しようとする準備中、アメリカ側は既に資金調達ができおり、技術を持つ日本側はまだ。
- 種苗・・・国内外の種苗会社による品種支配により、農家が従属的にならざるを得ない状況が一部にある。
- 水源・・・外国人による山林の購入がみられる。農地なので売買が成立せず守られている面もあるという。
- 市議・・・月給30万、希望者少なく、情報収集力・行動力共に機能しているようには見えない。